

脊振山の秋～植物の知恵

脊振山麓には、今年も実りのときが訪れました。

さわやかな秋風が通り抜ける、脊振の谷間。林の下に秋の花たちが咲いています。

そして、花と昆虫、共同作業が行われています。花は虫に栄養分の蜜を与え、そのかわりに虫は花の花粉を運び、受粉を助けます。お互いになくてはならない関係です。

ツリフネソウが咲いています。

（おもしろい形をしているね）

実はこのツリフネソウ、ぶら下がった状態で咲いていますね。船がぶら下がっている状態を、ツリフネソウと昔の人はつけたみたいですよ。

（どうしてこんな形になったの？）

実はこの花は、ハナバチだけをお客さんにしている花なんです。ここのくるとまわっているところに蜜が隠されているのですが、ハナバチがもぐりこんでこの蜜を吸ってくるとツリフネソウは非常にありがたいんです。

なぜかと言うと、実はここに花粉が隠されているんです。ハナバチがもぐっていくと、この背中にこの花粉がついてくれるんですね。そうやって受粉をやってくれる、それがハナバチなんです。

種が飛びました。ツリフネソウは種を飛ばすバネのようなものを持っています。

ちょっとした刺激、風だとかあるいは何かがちょっと触っただけでも、かなり遠くまで飛ばすことができると思いますよ。できたら、たぶん 1メートルとか 2メートル以上飛ぶんじゃないでしょうか。

脊振山頂から続く尾根です。

カエルがいました。

捕まえましたね。

タゴガエルです。

キンミズヒキが種をつけています。

実はこのキンミズヒキも、すごくおもしろい工夫をしているんです。さっきのツリフネソウは、種を飛ばして広げる工夫をしていましたが、こんどのこのキンミズヒキは、先のほうに毛をつけているんです。

この毛をよく見ると実はカギになっているんです。このカギで動物の毛にくっつけて、そして動物が運んで行ってくれることを願っているやつなんです。このカギになって動物に運んでもらう、そんな植物はまだたくさんあります。

これはヌスビトハギ。

ミズタマソウです。

チジミザサです。

（くっついたらはなれないぞ）

実はこれをアイデアにして作った商品があります。それがマジックテープといわれるや

つです。あのマジックテープは、一方がカギ状になっていて、一方は毛の状態になっているんです。実はこれをアイデアにして作られたんですよ。

森の母といわれるブナの林です。木の実を拾いました。

このブナの実とアカガシの実は秋になるとたくさん地面に落ちて、それをネズミたちがたくさん食べるわけです。するとネズミがどんどん増えていきます。そういうネズミを狙って、今度はマムシだとかシマヘビだとか食べに集まってくるんです。

ということは、ブナの森と言うのはいろんな動物がたくさん棲める、そういう森だということになります。

これはシマヘビ。ブナの林は多くの命を養っているんですね。

脊振の尾根には、冷たい風が吹き始めました。生き物達には、食べ物の少ないつらい季節がやってきます。しかしそれも自然の姿なのです。

(ずーっと大切にしたいね！)